

テーマ：2014年10-12月期GDP（2次速報値）の予測  
 ～前期比年率+2.2%と、1次速報から変化無しと予想～

発表日：2015年3月2日（月）

第一生命経済研究所 経済調査部  
 首席エコノミスト 新家 義貴  
[TEL:03-5221-4528](tel:03-5221-4528)

3月9日に内閣府から公表される2014年10-12月期実質GDP（2次速報）を前期比年率+2.2%（前期比+0.6%）と、1次速報段階（前期比年率+2.2%）から変化無しと予測する。本日公表された法人企業統計の結果が反映されることで、設備投資が僅かに上方修正されるとみられるものの、在庫投資の下方修正がそれを打ち消すことで、GDP全体では1次速報から成長率は不変と予想する。

景気認識についても変更は必要ないだろう。「3四半期ぶりのプラス成長で景気の底打ちを確認。ただし、4-6月期、7-9月期の落ち込みの割に戻りが弱く、力強さに欠ける」との評価が妥当とみられる。

## 2014年10-12月期GDP2次速報予測

## 1次速報実績

	(%)		(%)
実質GDP	0.6		0.6
(前期比年率)	2.2		2.2
民間最終消費支出	0.3		0.3
民間住宅	▲ 1.2		▲ 1.2
民間企業設備	0.3		0.1
民間在庫品増加(寄与度)	0.1		0.2
政府最終消費支出	0.1		0.1
公的固定資本形成	0.9		0.6
財貨・サービスの輸出	2.7		2.7
財貨・サービスの輸入	1.3		1.3
名目GDP	1.1		1.1
(前期比年率)	4.5		4.5

※断りの無い場合、前期比(%)

(出所)内閣府「国民経済計算」、第一生命経済研究所

設備投資は前期比+0.3%と、1次速報段階の+0.1%から僅かに上方修正されると予想する。本日公表された14年10-12月期の法人企業統計では、名目設備投資が季節調整済み前期比+0.6%と小幅な伸びにとどまった。QE推計において実施されている法季のサンプル要因を除去するための断層調整を行っても大きな変化はない模様。加えて、金融機関の設備投資、リース取引、12月分の供給側統計などを考慮すると、設備投資は1次速報から僅かに上方修正されるとみられる。

設備投資は前期比プラスとはいえ、4-6月期、7-9月期の落ち込みの後には弱く、日銀短観などのアンケート調査における設備投資計画が強い割に伸び悩んでいる印象を受ける。消費税率引き上げ後の景気の先行き不透明感の強まりを受けて、企業が投資を手控えている可能性が高いだろう。もっとも、既に景気が回復局面に転じていることや、収益改善が予想されることを踏まえると、今後は企業が先送りしていた投資計画を実行に移し始めると考えられる。1-3月期以降には増加ペースが速まる可能性が高いと予想する。

在庫投資は前期比寄与度+0.1%Pt と、1次速報段階の+0.2%Pt から下方修正されると予想する。1次速報段階で仮置きされている原材料在庫と仕掛品在庫については大きな変更はなかったとみられるが、流通在庫が下方修正に寄与したとみられる。

そのほか、公共投資は、1次速報段階で未公表だった14年12月分の建設総合統計の結果が反映されることで、前期比+0.9%と、1次速報の+0.6%から上方修正されると予想する。